

福高トピックス 2

☆新教育システム☆

平成24年3月12日

今春から、 普通科の教育システムが変わり、 第Ⅰ類、第Ⅱ類がなくなります！

“1人1人の能力、進路目標に応じた
柔軟な教育課程を編成し、
みんなの『みらい』を応援します！”

1年次

キーワード **一步一步着実に！**

コース制をとりません。

- わかる授業を展開し、学習意欲を高め、生徒1人1人の着実な学力向上を目指します。
- ◆全クラス同じ教育課程、同じ教科書で行います。
 - ◆習熟度別でクラス編制を行います。(5クラスを2つ、または、3つの区分に分けます。)
 - ◆数学と英語では、習熟度別授業を行います。



2年次

キーワード **希望進路を大切に！**

人文系

理数系

人文・社会科学コース

自然科学コース

自然科学コースの数学・理科・英語では、習熟度別授業を実施する予定です。

3年次

キーワード **進路実現を真剣に！**

国公立・私立大学文系
短大・専門学校・
公務員など

国公立・私立大学理系
看護医療系専門学校
など



柔軟な教育課程を展開し、生徒1人1人の希望進路を実現します。

- ◆クラス編制は、希望進路と学習状況によって行う予定です。
- ◆人文・社会科学コースの国語・地歴公民・英語では(希望進路に応じて数学・理科もあわせて)、発展的な内容も扱います。
- ◆自然科学コースの数学・理科・英語では(希望進路に応じて国語・地歴公民もあわせて)、発展的な内容も扱います。

- ◆1年次のクラス編制は、入学前に実施する学力診断テストなどを参考にして総合的に判断します。
- ◆2・3年次の人文・社会科学コース、自然科学コースのクラス数は希望者数により変わります。

福知山高校は、京都府の教育を長期にわたって支えてきた類・類型制度の下、その特性を活かして、第Ⅰ類からここ数年間、毎年、国公立大学に2ケタの生徒が合格(今年度も3月8日現在16名合格)したり、昨年度は普通科から57名も国公立大学に合格(進学に特化した専門学科を有する、京都府下全体の高校の中で、2年連続で2位<口丹以北では、他を大きく離して堂々の1位!>)になるなど、確かな実績を残してきました。

福高は、この度の制度改善を学校改革の機会と位置づけ、ぶれることのない指導方針の下、今まで積み上げてきた指導方法に磨きをかけ、さらなる質的変革を遂げたいと考えています。福高には、様々な目標を持った生徒が入学してきます。第Ⅰ類と第Ⅱ類の垣根が取り除かれたことにより、今まで以上に、1人1人の生徒が備えている資質・能力に的確に対応し、その可能性を最大限に引き出すことができる環境が整ったと考えています。

よく似た目標を持った仲間がクラスにいるから、日常的に刺激し合い、お互いに向上していけるのだと思います。ほぼ同じ学力の仲間がクラスにいるから、最も適切な教材を通じて、最も効果的に学力を伸ばしていけるのだと考えています。福高は、入学してきた生徒が力を伸ばし、抱いている夢を叶え、高校卒業後65年にわたる人生を力強く歩んでいけるよう、新しい教育システムを組みました。

福高は、ここ2年間、国公立大学合格者数86名、85名と、安定した高い実績を収めていますが、次年度の入学生から、さらに強い福高へと生まれ変わります。みんなは、新教育システムの導入第Ⅰ期生となる現中学3年生の後を、譲れない夢の実現に向け、迷うことなく、確かな足取りで歩み続けてほしいと思います。

メッセージ 2

福知山高校の指導方針は「個を活かし、公に生きる」です。生徒1人1人に、他の生徒にはないすばらしいところが、必ず、ある。その長所を活かしながら、公(社会)の進展に貢献してほしい。この新教育システムにより、今まで以上に、1人1人に丁寧に、きめ細やかに対応できる教育環境が整ったと信じています。

慶応義塾大学 法学部 法律学科

中川 陽介（舞鶴市立青葉中学校出身）

早稲田大学 政治経済部 政治学科

福高には、時間をかけて通学するだけの価値があった。思い切って今までとは全く異なる環境で学習し、これまで以上に自分を高めることができた。

僕は、志望校を決める時に大事なことの1つに、学力を着実に伸ばしてくれるかどうかということがあって思っていました。その頃、福知山高校は、文理科学科ができて2年目ということで、まだ、卒業生が出ていませんでしたが、福高から届いたよりなどを通して、驚くほど模試の成績が伸びていることを知り、とても興味を持ちました。僕の中学校からの先輩が1人もいなかったのもとても不安でしたが、学校説明会などに参加し、恵まれた学習環境、先生方の熱心な指導、活発な部活動、充実した学校行事、積極的なボランティア活動などを知り、福知山高校を第一志望に決めました。

当初は、舞鶴市からの入学生が僕1人でしたし、意識の高い人ばかりでついていけるかどうか、心配なスタートでした。しかし、入学して、改めて、大学受験を見据えて高校を選ぶ際に一番大事なことは、学校やクラスの雰囲気だということがわかりました。自分の意志が大事だということは当然ですが、学校やクラスの雰囲気というのは思った以上に個人のやる気に影響するものです。自分と同じように高い目標を持った人が身近にいるのとそうでないのでは、大きな違いがあります。この雰囲気を判断する一番の材料は、その学校やクラスの合格実績です。実際に、僕も福知山高校で3年間を過ごして、医学部や難関大学を目指すなど、意識が高く、学力の高い仲間から刺激を受け、真剣に指導していただける先生方から、僕も高いレベルを目指す気持ちを維持することができたのだと思います。僕が、第一希望の慶応大学（法）や早稲田大学（政経）などに合格できたのは、みんなの志望校に対する強い姿勢から学ぶところが多かったからだと思います。

このように勉強に対する意識が高い学校では勉強ばかりで行事などが少ないと思われがちですが、福知山高校は3年生も文化祭や体育祭の中心となって参加し、クラスやクラス・科の枠を超えた団で、成功に向けて時間の許す限り熱中して取り組むので、終わった時には一緒にやってきた仲間との強い絆が生まれます。年間を通して、いろいろな行事が計画されており、そのたびにクラスがまとまっていきます。このように福知山高校では、行事を通してクラスをつくり、共に支え合いながら勉強に向かっていく集団へとクラスを高めていくことができます。

遠方からの電車通学についてですが、心配は要らないと思います。僕の場合は家から片道で約1時間かかりましたが、逆に



遠足:3年生USJ

これくらいまとまった時間があると、勉強したり本を読んだりして、有効に活用することができました。家でしかできないこと、電車のなかでもできることを整理すれば、電車で過ごす時間を1日の学習時間のスケジュールに組み込むことができると思います。

福知山高校では、「日々の演習」があります。毎日、課題が出され、学習を習慣化するうえでとても助かりました。また、基礎学力の定着の面でも、とても効果的だったと思います。授業で学習したことと関連した内容が出題されることもあり、暗記の確認にもなりましたし、難関レベルの私学に合格するためには、数多くの問題にあたる必要があるため受験勉強の点からもありがたかったです。毎日続けることは、確実な、安定した実力アップにつながりました。



感動の文化祭合唱の後

その目標達成に向けて、1人1人に丁寧な指導して下さる学校も他にないと思います。福知山高校を選択肢の1つに入れてみてください。貴重な3年間を過ごすことになるわけですからいろいろな条件を慎重に整理し、結果として、思い切って今までとは全く異なる環境で学習し、生活することにより、今まで以上に自分を高めることができると思います。受検がんばってください。

文理科学科では、各分野の最先端の大学教授などによる講演を通して、高校のレベルをはるかに超える研究内容について学び、視野を広げるよい機会になりました。また、2年間、グループで研究に取り組み、研究の深め方や論文の書き方、プレゼンテーションの方法を学んだことは大学での研究にとっても役に立つと思います。

舞鶴市に住んでいる僕にとって、福知山高校は遠距離通学となりましたが、時間をかけて通学するだけの価値があったと思います。これだけの刺激を受けることができる学校は少ないと思いますし、生徒の思いをくみ取り、

◎僕が、第一希望の慶応大学(法)や早稲田大学(政経)などに合格できたのは、みんなの志望校に対する強い姿勢から学ぶところが多かったからだと思います。

⇒ 福知山高校には、年々、遠方から通学する生徒が増えてきています。中川は、文理科学科の設置以降では、舞鶴市から福高を選択した最初の生徒でした。先輩がいないため福高の状況もつかめな部分が多く、不安な部分が随分あったと思います。しかし、自分を向上させ、成長させることに妥協することなく、強い決意で誰も踏み入れたことのない道を歩み始めました。

そして、意識の高い仲間と巡り会い、お互いがお互いを刺激し、励まし、勇気づけ合いながら、難関大学を志し、最難関大学の最もレベルが高いと言われる学部を、見事、突破しました。通学に少し時間がかかったかも知れませんが、そのハンディを、電車内の時間を有効に活用することによりプラスに転換し、驚異的なペースで実力を伸ばしてきました。

3年間にわたる受験勉強は、決して、順調な時ばかりではなかったと思います。しかし、教室には、必ず、その日の気分振り返られることなく一心不乱に授業に集中している仲間がいて、そのような生徒の勢いに、支えられたこともあったことと思います。よきライバルが見つかる環境だからこそ、自己に決して満足することなく、努力を継続できたのだと思います。